

改正建基法施行から1ヵ月

ピアチックに障害

技術基準告示の理解待ち

施行から20日で1ヵ月を迎える改正建築基準法の目玉として創設された、構造計算適合性判定（ピアチェック）の実施がまだ低調だ。改正によって厳格化された建築確認申請手続きや、施行日前に公表された技術基準関連の告示に対する理解が進まず、申請側、審査側ともに慎重にならざるを得ない状況にある。また、多くの構造設計者が参考にする、通称「黄色本」といわれる構造関係技術基準解説書（2007年度版）の発行も遅れており、構造設計者からは、「黄色本がないと設計ができない」という声も上がっている。解説書を発行する日本建築センターでは、「現在、要約作業を進めており、発行は8月下旬になる見通し」（6月10日付）との影響で申請の手控えはあると1ヵ月程度続く可能性もある。

「黄色本」発行の遅れも影響

エリヤ（ピアチェック）機関の判定状況をみると、関東地区では、日本建築センターが1件受け付けているものの、日本建築センターが1件受け付けているが、神奈川県建築安全協会や神奈川県建築検査機関、日本ERIにはピアチェック申請件数はまだ零だ。東京都は、改正後の申請状況について、「6月20日前の駆け込みの影響もあり、法施行前と比べれば少なくなるべくに慎重にならざるを得ない」として、（都市整備局建築企画課）とした上で、「関東圏では、建築確認申請手続が実施され、審査側も書類の確認においてはいずれもゼロのまま。中国地区でも出口情報（同）としている。一方、構造設計の業務者レベルでは、黄色本の発行の遅れが、改正法に適合した設計作業を進める上で影響を及ぼしている。黄色本は、国土交通省は、ピアチェックの実施状況について、「確認申請書類の差し替えができないなるな

いのは、理由として成り立たない」としているものの、多くの構造設計者が黄色本を設計の参考にしているのも事実だ。法改正に伴う具体的な技術基準については、「告示と技術的助言だけでは情報不足」という指摘も多い。東京都が複数の設計者にヒアリングした結果、「黄色本がないと設計ができない」という声も聞いている。（都市整備局建築企画課）と、黄色本の発行の遅れが申請手控えの一因にになっていること、（改法施行前に技術基準の告示に関するテキストに基づいた講習会を実施しており、解説書がないので設計ができないと指摘している。